### 第1編 志木市人口ビジョン

## 序章

# 人口ビジョンの位置づけ

### 1 人口ビジョンの位置づけ

志木市人口ビジョンは、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、志木市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するにあたり、志木市の人口動向を分析し将来人口を見通したうえで、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を展開するための基礎的な資料として位置づけます。

そのため、本ビジョンは、本市における人口の現状を詳細に分析し、人口に関する地域住 民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示することを目的とし ます。

### 2 対象期間

国立社会保障・人口問題研究所の推計期間であり、国の長期ビジョンにおける対象期間でもある 2060 (平成 72) 年とします。

# 第1章 人口の現状分析

### 1 志木市の人口の現状

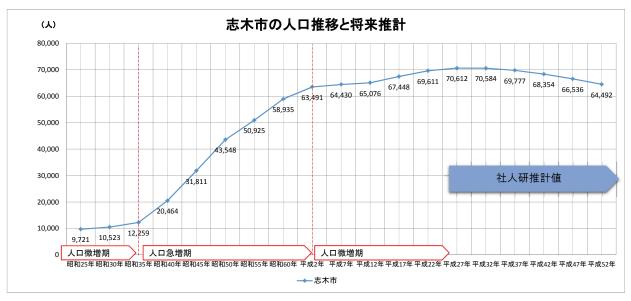
### (1)人口動向•推計

### ①総人口の推移と将来推計

本市の人口は国勢調査によると、平成 22 年は 69,611 人であり、近年は微増傾向で推移しています。長期の動向をみると、昭和 25 年は 9,721 人であり、昭和 35 年までは微増傾向で推移しており、それ以降は平成 2 年の 63,491 人まで急増しました。

本市の人口の推移は、①昭和 35 年までの人口微増期<第 1 期>、②昭和 35 年から平成 2 年までの人口急増期<第 2 期>、そして③平成 2 年以降の人口微増期<第 3 期>と、大きく 3 期に分けることができます。なお、人口急増時に生まれた人は、現在、 $25\sim55$  歳となっています。

### ■志木市の人口推移と将来推計〔国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所〕



### ②地域別人口の状況

地域別人口をみると、鉄道沿いの柏町地区・幸町地区、荒川沿いの下宗岡地区で人口増加が目立ち、最も人口密度が高い館地区のみ人口が減少しています。

### ■地区別面積及び人口密度



11h 157 47	<b>工</b> (1 = 2 )	亚出 10 年 ( 1 )	18年(人) 平成 26年(人) 「」		
地区名	面積(km²)	平成 18 年(人)	十成 20 千(人)	増減率(%)	人口密度(人/km³)
本町	1.062	14,706	15,596	6.1%	14,685
柏町	1.073	11,150	13,688	22.8%	12,757
幸町	0.724	9,204	11,147	21.1%	15,396
館	0.449	9,138	8,056	-11.8%	17,942
上宗岡	1.309	7,846	8,378	6.8%	6,400
中宗岡	1.380	10,152	10,939	7.8%	7,927
下宗岡	1.092	4,813	5,306	10.2%	4,859
合計	9.060	67,009	73,110	9.1%	8,070

資料:住民基本台帳 ※平成18年1月1日現在(外国人を除く)、平成26年3月31日現在 ※面積の合計値には、荒川堤外1.971kmを加える

### 【人口動向・推計のまとめ】

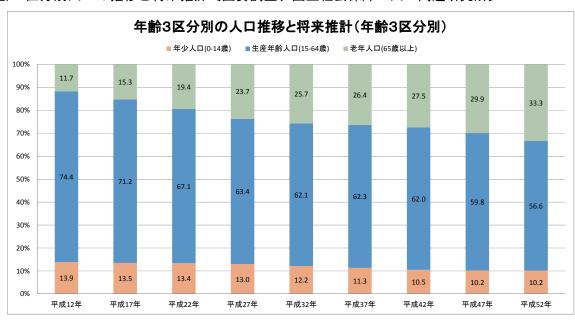
- ◆本市の人口は増加傾向にありますが、今後は減少に転じることが予想されます。
- ◆昭和35年以降平成2年までの人口急増期に生まれた人は、現在、25~55歳となっており、 今後、高齢化が進むことが予想されます。
- ◆地区別の人口では、柏町地区・幸町地区で大幅に増えており、館地区では減少しています。

### (2)年齡別人口分析

### ①年齢3区分別の人口推移と将来推計

年齢3区分別の人口推移をみると、平成22年の年少人口は13.4%、生産年齢人口は67.1%であり、いずれもその割合は減少傾向にあります。一方、老年人口は19.4%であり、将来推計では平成27年には"高齢社会"から"超高齢社会"になることが想定され、急激に高齢化が進んでいます。

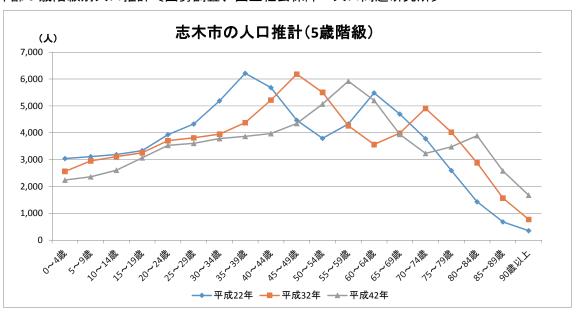
### ■年齢3区分別人口の推移と将来推計[国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所]



### ②年齢5歳階級別の人口推計

平成 22 年→平成 42 年の人口推計をみると、若年世代は減少傾向となっており、特に 35  $\sim$ 39 歳の減少幅が大きくなっています。

#### ■年齢 5 歳階級別人口推計〔国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所〕

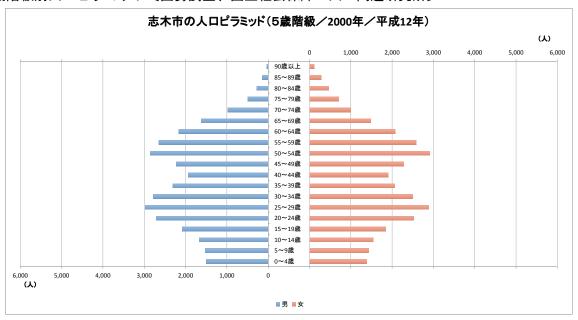


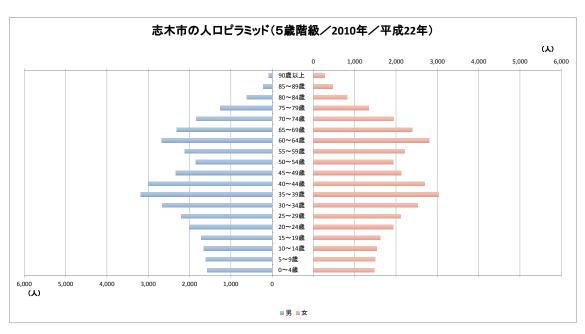
### ③人口ピラミッド(5歳階級)

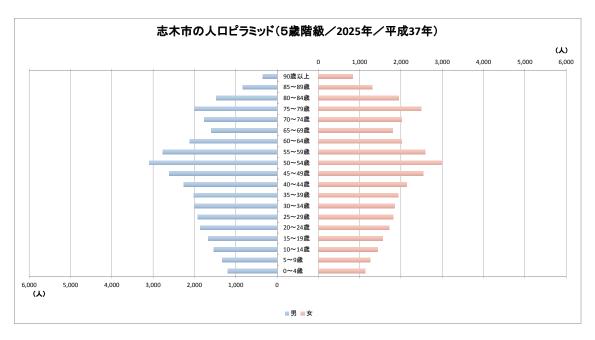
平成 22 年の人口ピラミッドをみると、いわゆる団塊の世代を中心とした年代である 60 歳代と、その子どもに相当する 30 歳代後半~40 歳代前半を中心とする年代(団塊ジュニア)が多くなっています。団塊の世代の孫にあたる年代の"山"はみられず、少子化が進行しています。

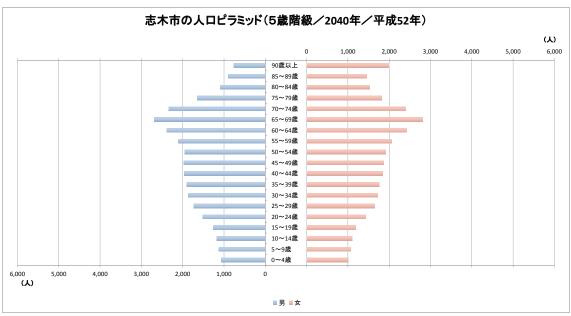
経年変化をみると、年少人口 $(0\sim14~~$ 歳)、20~~歳代、30~~歳代の人口の減少が顕著となっています。

### ■5歳階級別人ロピラミッド〔国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所〕







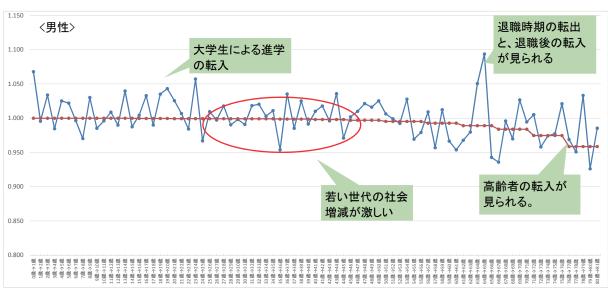


### ④年齢1歳階級別・性別の人口推移

男女の年齢 1 歳階級別人口変化率をみると、男女ともに、大学等への進学に伴う転入がみられます。その後は、20 歳代から 40 歳代まで社会増減を繰り返しており、転入・転出の動きが激しいことが分かります。

退職に合わせて大幅に転出しており、その後、緩やかに転入がみられます。

### ■男女別1歳階級別変化率の平均(H23~H27)





◆◆◆◆ 生残率:ある年齢の人が、次の年齢に達するまでに死亡することなく生残する割合です。

\*\*\*\* 純移動率:ある地域の純移動数(転入一転出)が地域人口に占める割合です。 このグラフでは「1.000」の目盛りより上に点があると転入が多く、下にあると転出が 多いことを示しています。

#### 【年齢別人口のまとめ】

- ◆今後は少子高齢化の進行、生産年齢人口の減少が予想されます。
- ◆このまま施策を講じないと、現在最も多い 20~30 歳世代が大幅に減少することが予想されます。
- ◆若い世代は、大学等への進学に伴う転入の増加、その後のファミリー世代における転入・転出の 繰り返しがみられます。

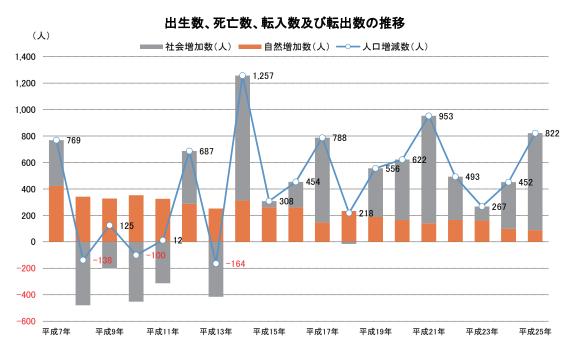
### (3)人口動態分析

### ①出生数、死亡数、転入数及び転出数の推移

出生数は平成 25 年で 629 人であり、近年は横ばいで推移しています。一方、死亡数は平成 25 年で 540 人であり、近年は増加傾向にあります。出生及び死亡に伴う人口の動きである自然動態をみると、平成 7 年から一貫して死亡数よりも出生数が多い"自然増"となっていますが、近年自然増加数は減少傾向となっています。

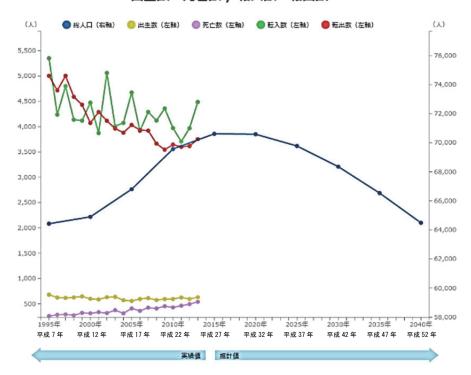
転入は、平成 7年の 5,349 人から平成 13年には 3,872 人まで減少しましたが、平成 14年には 5,058 人まで増加し、その後は増減を繰り返しています。転出は平成 7年の 5,002 人が平成 25年には 3,752 人まで減少し、近年は減少傾向となっています。転入及び転出に伴う人口の動きである社会動態をみると、平成 8年~平成 11年、平成 13年は転入数よりも転出数が多い"社会減"となりましたが、それ以降は転出数よりも転入数が多い"社会増"となっています。

### ■出生数、死亡数、転入数及び転出数の推移〔人口動態統計 地域経済分析システム〕



集計年	転入数(人)	転出数(人)	出生数(人)	死亡数(人)
平成7年	5, 349	5, 002	681	259
平成8年	4, 236	4, 715	624	283
平成9年	4, 799	5, 001	617	290
平成10年	4, 136	4, 588	626	274
平成11年	4, 118	4, 431	646	321
平成12年	4, 472	4, 073	600	312
平成13年	3, 872	4, 288	587	335
平成14年	5, 058	4, 114	630	317
平成15年	4, 007	3, 961	637	375
平成16年	4, 073	3, 880	572	311
平成17年	4, 672	4, 031	556	409
平成18年	3, 917	3, 933	596	362
平成19年	4, 288	3, 920	612	424
平成20年	4, 120	3, 664	575	409
平成21年	4, 356	3, 544	594	453
平成22年	3, 971	3, 644	595	429
平成23年	3, 705	3, 600	625	463
平成24年	3, 968	3, 616	594	494
平成25年	4, 485	3, 752	629	540

出生数·死亡数 / 転入数·転出数



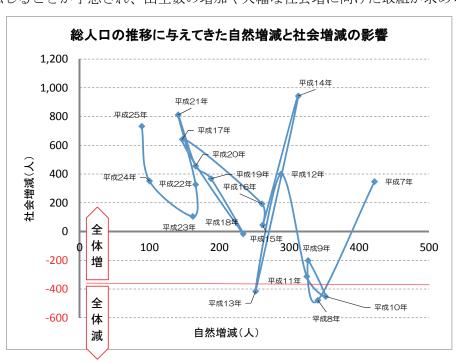
資料:総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

注記:総人口のデータは、2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2015年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータに基づく推計値。総人口については、年齢不詳は除いている。2013年からは外国人登録人口の加算により、社会増減が大幅に増加している。

### ②自然増減及び社会増減の影響

平成7年以後の自然増減及び社会増減の状況をみると、「自然増」が続いており、大幅な「社会減」であった平成8年、平成10年、平成13年を除き、全体増となっています。平成14年以降は、「自然増」「社会増」により全体増につながっています。

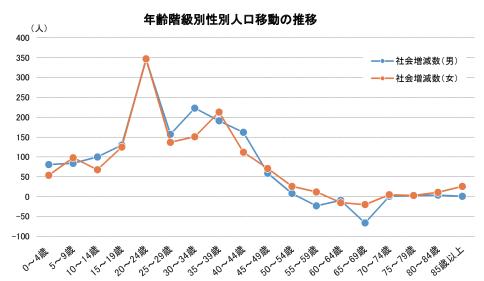
しかし近年は、死亡数の増加により、「自然増」が次第に縮小していることから、今後は「自 然減」に転じることが予想され、出生数の増加や大幅な社会増に向けた取組が求められます。



### ③性別・年齢階級別の人口移動の状況

男女ともに、50 歳までは社会増となっており、特に  $20\sim24$  歳は転入数の大きな増加がみられます。一方で、50 歳以降は社会減の傾向にあり、特に男性の  $65\sim69$  歳の転出数が高くなっていることがうかがえます。

男女の比較をすると、男女ともに社会増の山が 2 つありますが、男性は  $30\sim34$  歳、女性は  $35\sim39$  歳、共通して  $20\sim24$  歳となっています。



■性別・年齢階級別の人口移動の状況〔国勢調査:平成22年10月1日現在〕

### ④地域間の人口移動の状況

平成 17 年から平成 22 年にかけて、志木市に住んでいた 69,611 人のうち、そのまま住み続けた人が 49,726 人、志木市内で移動があった人が 4,343 人、市外へ転出した人が 9,739 人となっています。市外へ転出した人のうち、県内の市町村へ転出した人が 5,100 人、埼玉県外へ転出した人が 4,639 人となっており、県内の他市町村への転出者数の方が高くなっています。

一方、この 5 年間で転入してきた人が 12,614 人であり、県内の他市町村からが 5,878 人、他 県からが 6,129 人などとなっています。また、志木市内での移動は 4,343 人となっており、現在 (平成 22 年) の常住者の約 6%が市内での転居を行ったことがわかります。

■移動人	口の状況	(平成 17	在→平成	'22 年)

	総数(人)	男性(人)	女性(人)
常住者	69,611	34,877	34,734
現住所	49,726	24,617	25,109
自市町村内	4,343	2,130	2,213
自区内	_	-	_
自市内他区	_	-	_
転入	12,614	6,413	6,201
県内他市区町村から	5,878	2,931	2,947
他県から	6,129	3,165	2,964
国外から	607	317	290
転出	9,739	4,962	4,777
県内他市区町村へ	5,100	2,509	2,591
他県へ	4,639	2,453	2,186

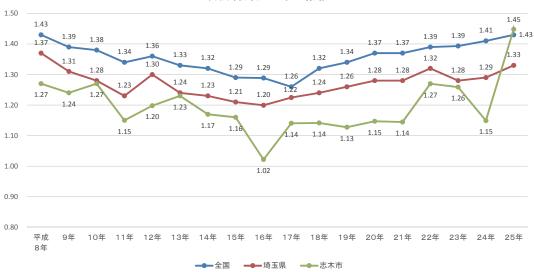
### ⑤合計特殊出生率の状況

本市の合計特殊出生率は、平成 24 年まで  $1.0\sim1.3$  で推移し、全国や埼玉県を下回って推移していましたが、平成 25 年には 1.45 と大幅に上昇しています。

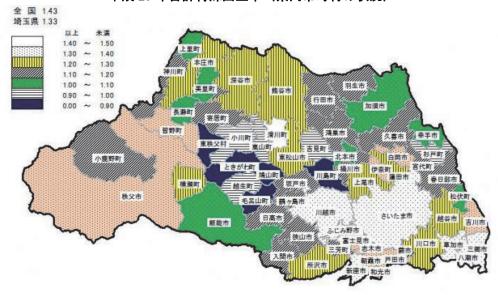
県内自治体の合計特殊出生率をみると、県域の中央部に位置する自治体で 1.0 を下回っていますが、その他は 1.0 を上回っています。本市においては県内でも上位に位置しています。

### ■合計特殊出生率の推移〔埼玉県保健医療政策課〕





平成 25 年合計特殊出生率 (県内市町村の状況)



※埼玉県は、総務省統計局「各年 10 月 1 日現在推計人口(総人口)」、国勢調査年は、総務省統計局「国勢調査による基準人口 (日本人人口)」を用いて算出

※市区町村は、埼玉県統計課「各年1月1日現在埼玉県町(丁)字別人口(総人口)」、国勢調査年は、総務省統計局「国勢調査 人口(日本人人口)」を用いて算出

### 【人口動態のまとめ】

- ◆平成14年以降、常に人口増加を維持しています。
- ◆近年は死亡数の増加から、自然増加数は徐々に減ってきており、自然増を維持するためには、 出生数の増加が求められます。
- ◆20歳代前半と30歳代の社会増が突出しており、若年層の転入需要は高いといえます。
- ◆合計特殊出生率は、近年増加しており県内でも上位に位置しています。

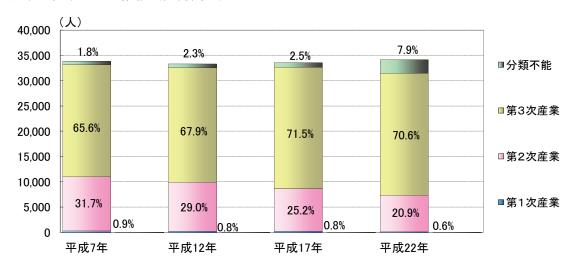
### 2 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

### (1)産業構造への影響

### ①産業別就業者数

産業別就業者数は、総数は 34,000 人程度で推移しており、第 3 次産業が約 70%を占めています。第 2 次産業は約 20%、第 1 次産業は 1%以下で推移しており、ともに減少傾向にあります。

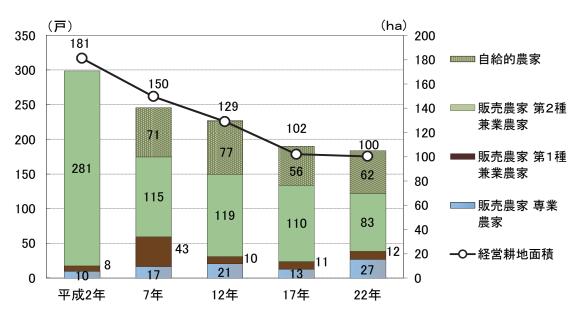
### ■産業別就業人口の推移〔国勢調査〕



### ②農業の状況

平成 22 年の農家数は 184 戸、経営耕地面積は 100ha でしかなく、ともに減少傾向にあります。ただし、専業農家のみ近年増加しています。

### ■農家数及び経営耕地面積の推移〔農業センサス〕

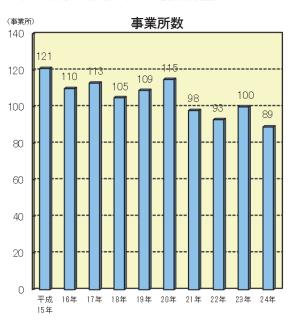


### ③工業の状況

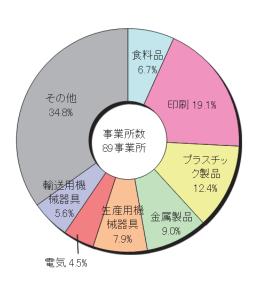
事業所数は減少傾向にあり、平成 24 年には 89 事業所となっています。事業所の構成比をみると、印刷 (19.1%)・プラスチック製品 (12.4%) が多くなっています。

事業所の従業者数は、近年減少傾向に歯止めがかかっており、平成 24 年には 1,320 人となっています。事業所従業者の構成比をみると、印刷が 23.3%、金属製品が 14.9%、プラスチック製品が 8.2%となっています。

#### ■事業所数の推移〔工業統計調査〕



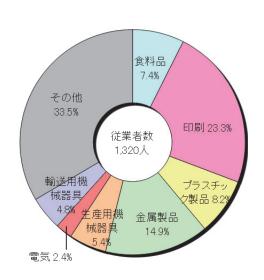
#### ■事業所構成比(平成24年)



### ■事業所従業者数の推移〔工業統計調査〕



### ■事業所従業者構成比(平成24年)



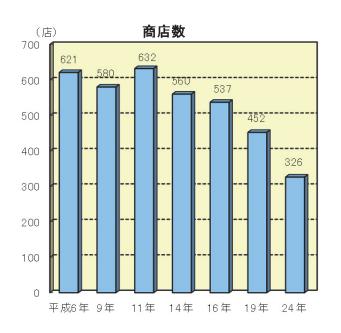
### 4)商業の状況

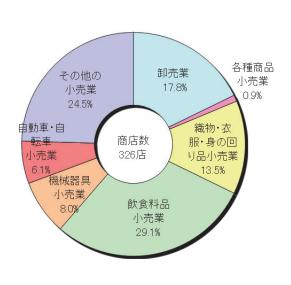
商店数は近年減少傾向にあり、平成24年には326店となっています。商店数の構成比は、 卸売業が 17.8%で小売業が 82.2%です。小売業の中では、飲食料品が 29.1%と多くなっていま

商店の従業者数は平成11年以降は減少しており、平成24年には2,919人となっています。 商店従業者の構成比をみると、卸売業が11.6%で小売業が88.4%となっています。小売業では 飲食料品が多く、全体の38.7%を占めています。

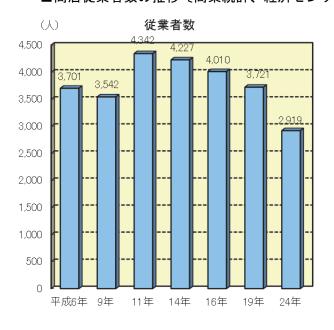
### ■商店数の推移〔商業統計、経済センサス〕

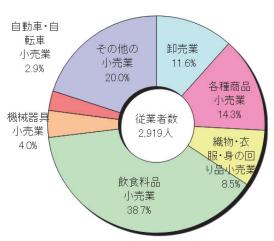
#### ■商店数の構成比(平成24年)





### ■商店従業者数の推移〔商業統計、経済センサス〕 ■商店従業者構成比(平成24年)





小売商業の商業規模は県内でも小さい方ですが、経営水準は県平均を上回っています。本市 には比較的大規模店舗が多いため、近隣都市と比較してもさいたま市・ふじみ野市に次いで川 越市並みの経営水準となっています。

### ■小売商業の水準(平成24年)[経済センサス・住民基本台帳]

		志木市(A)	埼玉県(B)	A/B(%)	
商業規模	1 万人当り商店数(店)	38.03	45.26	84.0	
	1 人当り販売額(万円)	72.82	77.34	94.2	
	1 人当り売場面積(㎡)	1.04	0.92	113.9	
吸引力	平成 24 年人口(人)	70,466	7,149,503	-	
	小売販売力水準(%)	94.16	-	-	
	実質商圏人口(人)	66,348	-	-	
経営水準	1店当り従業員数(人)	9.63	8.80	109.4	
	1 店当り販売額(百万円)	191.47	170.88	112.0	
	1 店当り売場面積(㎡)	274.52	202.49	135.6	
生産性	従業員1人当り販売額(百万円)	19.89	19.42	102.4	
	売り場面積当り販売額(万円)	69.75	84.39	82.6	
備考		小売販売力水準=志木	市 1 人当り販売額/埼3	医県 1 人当り販売額	
		実質商圏人口=人口×小売販売額水準			

### ■近隣都市との比較(平成24年・小売商業)〔経済センサス・住民基本台帳〕

	商店数	販売額	一店当り	売り場	一店当り
			販売額	面積	売場面積
	(店)	(百万)	(百万)	( <b>m</b> ²)	(m²)
さいたま市	5,043	1,059,616	210.1	1,102,391	218.6
川越市	1,507	288,538	191.5	305,849	203.0
朝霞市	367	59,172	161.2	54,286	147.9
志木市	268	51,313	191.5	73,572	274.5
和光市	206	53,129	257.9	48,500	235.4
新座市	571	104,956	183.8	126,391	221.4
富士見市	394	48,740	123.7	50,243	127.5
ふじみ野市	438	79,113	180.6	111,114	253.7

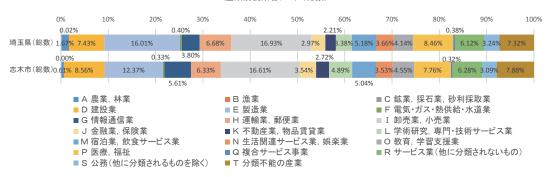
### ⑤産業別就業者シェア

産業別就業者の割合をみると、本市は埼玉県の割合と比較して製造業の割合が少なく、建設業、学術研究等の割合が多くなっています。男女別にみても同様の傾向にあります。

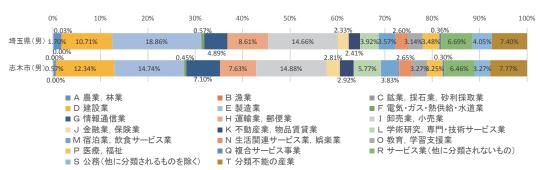
男性と女性を比較すると、男性は建設業、製造業の割合が多く、女性は卸売業・小売業、医療・福祉の就業者割合が多くなっています。

### ■産業別就業者シェア (平成 22 年) [国勢調査]

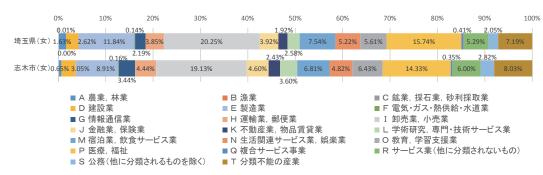
#### 産業別就業者シェア(総数)



#### 産業別就業者シェア(男)



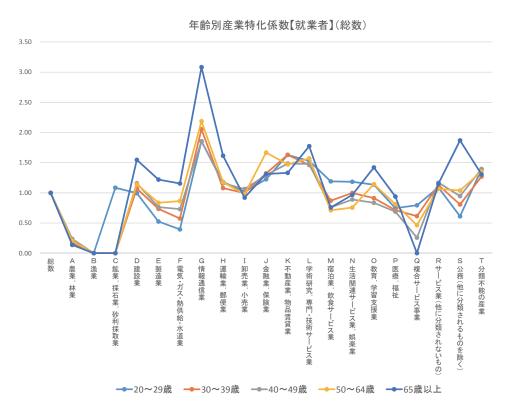
#### 産業別就業者シェア(女)

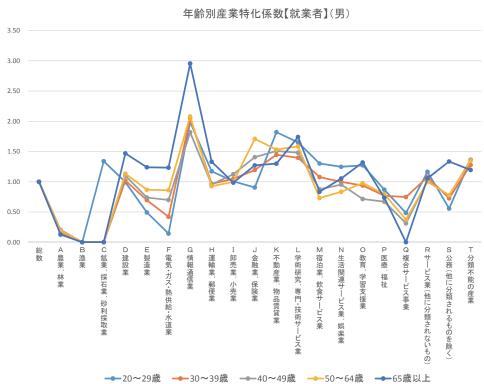


### ⑥就業者の産業特化

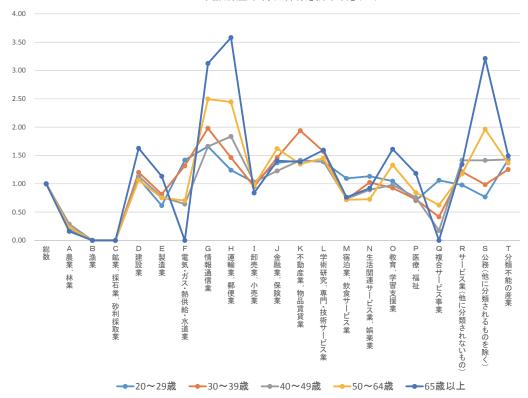
全国値を分母とした産業特化係数をみると、全体的に情報通信業、学術研究等、建設業に特化していることが分かります。特に男性で情報通信業、学術研究等が特化しており、男性の 20 ~29 歳では不動産業に特化していることが分かります。女性は、情報通信業、運輸業・郵便業、教育・学習支援業で特化しています。

### ■産業特化係数(平成22年就業者数)[国勢調査を加工]





#### 年齡別産業特化係数【就業者】(女)



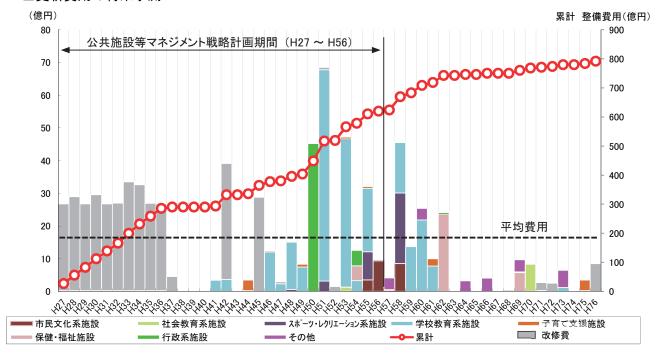
- ◆本市の産業構造は、第3次産業に依存しており、特に卸売業・小売業の就業割合が多くなっています。しかし、商店数や商店従業者数は減少しており、今後、商業の衰退・にぎわいの喪失につながることが懸念されます。
- ◆一方で、就業者は、情報通信業や不動産業など都心からの近接性を生かした業種が特化していることから、東京や周辺市の雇用と連携した定住策が必要です。
- ◆周辺市との近接性を生かし、広域連携により新たな人の流れが生まれる産業展開(観光等) や、新たな転入者の増加等により、まちのにぎわいの創出も求められます。

### (2) 公共施設の維持管理・更新等への影響

本市の公共施設は、当面は改修費用のみ発生し、更新費用は平成 41 年から発生することが予想されます。

50年間の大規模改修費を含んだ更新費用は累計で約800億円が見込まれ、1年間の平均費用は約16億円となります。ただし、最近の工事費の動向は、東京オリンピックや震災復興という社会的需要の変動によって、大きく変化しています。

### ■更新費用の将来予測



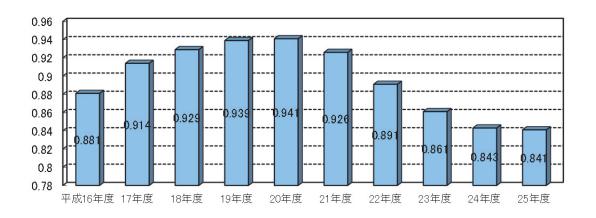
- ◆人口の増加に対応し、市民サービスの向上を図るため整備してきた公共施設及びインフラは、今後、人口減少や少子高齢化に伴う利用需要の変化、それに加えて施設等の老朽化や 設備の更新により維持補修経費の増大が予想されます。
- ◆このような中、長期的視点をもって施設等の更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行う ことにより財政負担を軽減・平準化するとともに公共施設等の最適な配置を実現する必要 があります。

### (3) 社会保障の財政需要、税収等の減による市財政への影響

財政力指数は、富裕団体にも近かった平成 20 年をピークに低下傾向にあり、まだ余裕がある ものの平成 25 年度は 0.841 となっています。

経常収支比率は、平成 18 年度に適正値(80%)に近づくほど改善しましたが、その後悪化傾向にあり平成 25 年度にはゆとりが少ない 86.7%になっています。

#### ■財政力指数の推移〔総務省 決算カード〕



### ■経常収支比率の推移〔総務省 決算カード〕



- ◆全国的に近年、急激に高齢化が進行しており、本市においても超高齢社会を迎えようとしていますが、高齢化の進行により社会保障費は今以上に増大することが予想されます。
- ◆生産年齢人口も減少傾向にあることから市税収入の減少が予想され、厳しい財政状況になると予想されます。従って、限られた財源や資源を有効に生かして、適切な財政運営が求められます。

# 第2章 人口の将来展望

### 1 将来展望に必要な調査・分析

### (1) 若年世代の意識調査

志木市在住の市民に対してアンケート調査を行い、結婚・出産・子育てに関する意識や実態を把握し、今後の施策等の検討素材として活用することを目的とします。

### ①調査の概要

調査結果の概要は以下のとおりです。

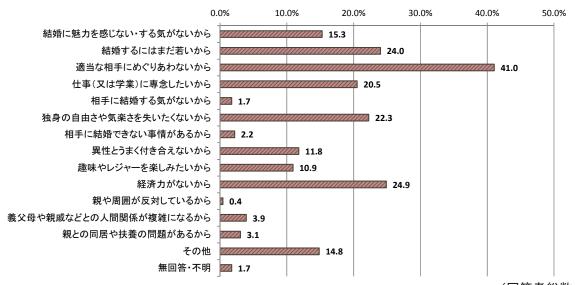
### ■アンケート調査の概要

調査地域	志木市全域
調査対象	志木市在住の満 18 歳以上 40 歳未満の男女個
	人 (未婚者及び既婚者)
調査方法	郵送配布、郵送回収
対象者数 (配布数)	2,000 人
抽出方法	住民基本台帳に基づく無作為抽出
有効回収数	530 票
有効回収率	26.5%
実施期間	平成 27 年 6 月 10 日~6 月 29 日

### ②結婚の状況・意識について

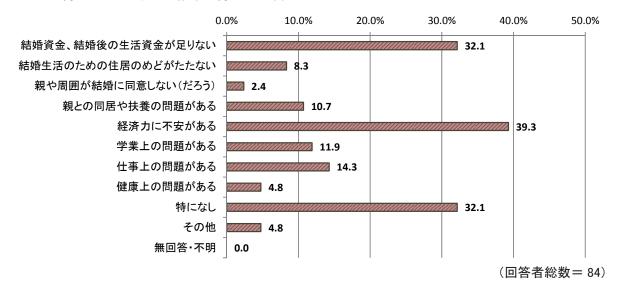
- ◆結婚していない理由としては、「適当な相手にめぐりあわないから」が最も多く、20歳前後では経済的な問題や仕事への専念が理由となっていますが、20歳代後半から30歳代にかけては、出会いの場の創出が求められます。
- ◆交際している人が結婚するためには、経済的な問題が大きく影響しています。

### ■結婚していない理由



(回答者総数= 229)

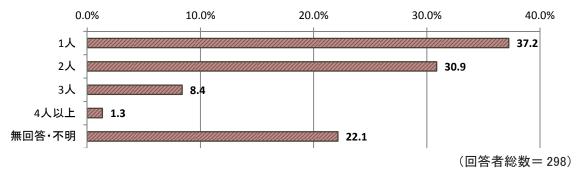
#### ■交際している方との結婚に際しての障がい



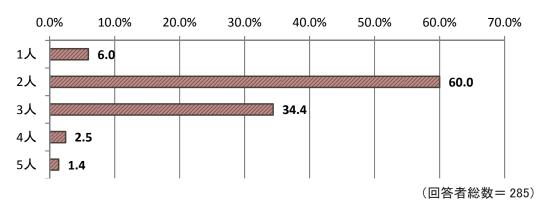
### ③子育て環境について

- ◆現在の子どもの人数は1~2人が多く、理想の子どもの人数は2~3人が多くなっており、 理想の子どもの人数と比較して、現在の子どもの人数が少ないことがわかります。
- ◆理想より子どもの人数が少ない理由としては、出産・育児・教育の経済的負担や仕事と 育児が困難であることがあげられ、理想の子どもの人数に近づけるための条件として、 保育所の入所、経済的な負担軽減措置、地域・社会での応援体制があげられます。

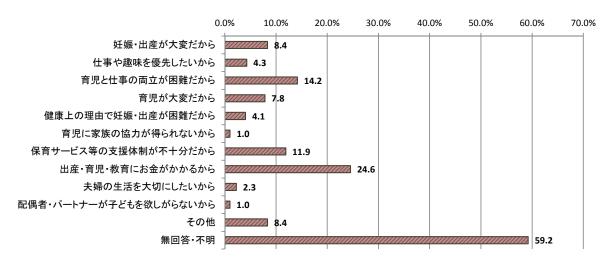
### ■子どもの人数



### ■理想の子どもの人数

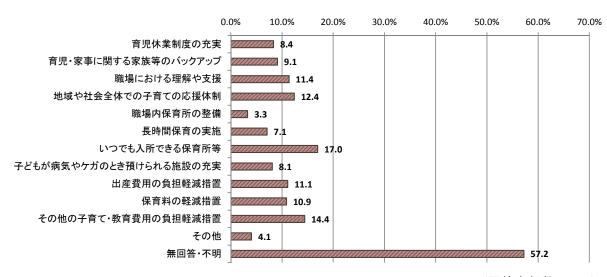


### ■子どもがほしくない理由・理想より子どもの人数が少ない理由



(回答者総数=395)

### ■子どもを持つため・理想の子どもの人数に近づけるための条件

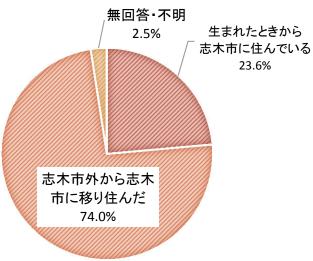


(回答者総数=395)

### 4転入・定住について

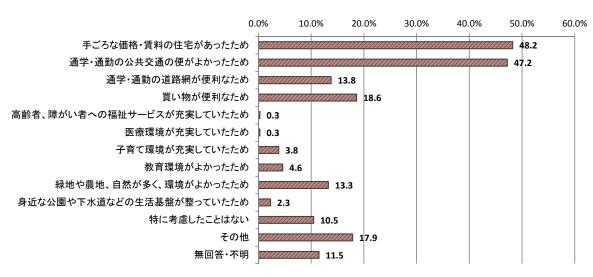
- ◆市外から移り住んだ人が74%を占め、若い世代は転入者が多いことがわかります。
- ◆志木市を選択する条件として、適当な住宅、交通利便性、買い物利便性があげられ、本 市の強みを生かした転入者の増加が求められます。

#### ■志木市での定住



(回答者総数=530)

### ■居住先に志木市を選択する際に考慮した点



(回答者総数=392)

### (2) 高校生 進学・就職に関する意識・希望調査

志木市内の高等学校に通学する高校生に対してアンケート調査を実施し、今後の志木市への 居住意向、進学・就職の問題点・支援の必要性等を把握し、今後の施策等の検討素材として活 用することを目的とします。

### ①調査の概要

調査結果の概要は以下のとおりです。

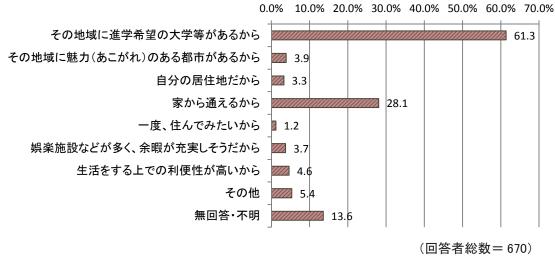
#### ■アンケート調査の概要

_ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	~
調査対象	市内の高校へ通学する高校3年生 (慶應義塾志木高等学校、埼玉県立志木高等学校、細田学園 高等学校)
調査方法	市内の高校へ調査協力を依頼し、直接配布
対象者数 (配布数)	849 人
有効回収数	818 票
有効回収率	96.3%
実施期間	平成 27 年 6 月 15 日~6 月 30 日

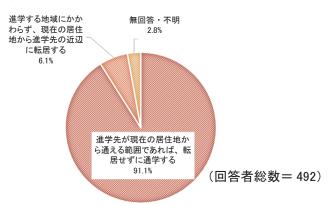
### ②進学について

◆進学を希望する地域については、進学希望の大学や家からの近接性で選ぶ人が多く、県内 や東京近辺への進学の場合は、転出はせずに通学する人が多いことがわかります。

### ■進学を希望する地域を選んだ理由



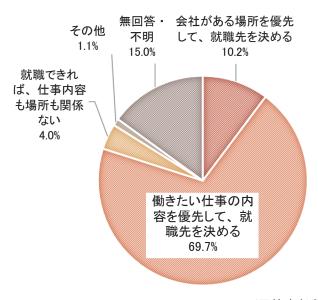
#### ■国内に進学を希望する場合の居住地域



### ③就職について

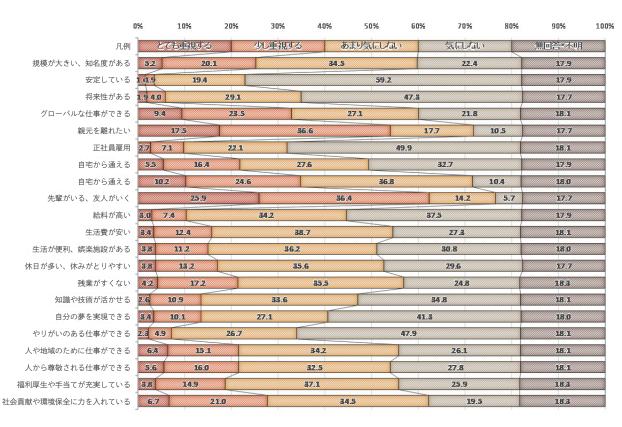
◆就職については、仕事の内容で決める人が約70%を占める一方、就職先を決める際の重要 度は、親元を離れたいや先輩や友人との関係を重視する人が多くなっています。

### ■就職先を選択する際の優先度



(回答者総数= 733)

### ■就職先を決める際の重要度

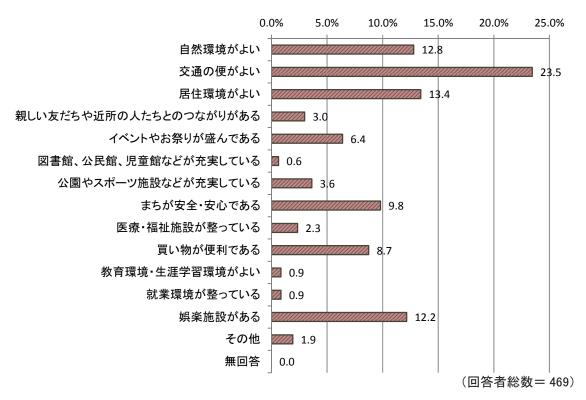


(回答者総数= 733)

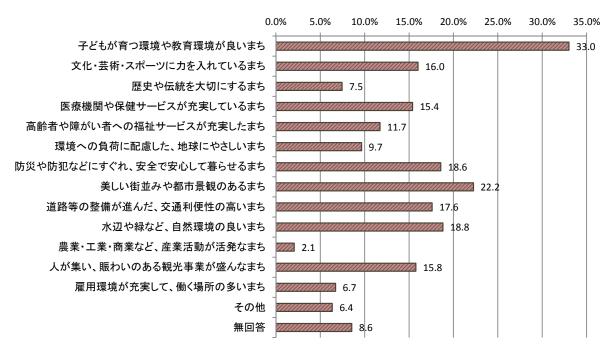
### 4)志木市のまちづくりに関して

- ◆本市への居住の条件として、交通利便性、自然・居住環境、安全・安心が多く、娯楽や 買い物利便性は、本市ではなくても都心との近接性に補うことができます。
- ◆将来は、子育て環境や教育環境、都市景観などの街並み環境が求められています。

### ■志木市に居住する場合に重要な条件(第1条件)



### ■10年後の志木市はどのようなまちであってほしいか



(回答者総数=818)

### (3) 転入・転出に関する調査

志木市への転入者・志木市からの転出者に対してアンケート調査を実施し、転入・転出理由、 志木市のまちづくりへの要望等について把握し、今後の施策等の検討素材として活用すること を目的とします。

### ①調査の概要

調査結果の概要は以下のとおりです。

### ■転入者アンケート調査の概要

	**
調査対象	平成 26 年 1 月~12 月に志木市への転入者
	(満 18 歳以上の男女個人)
調査方法	郵送配布、郵送回収
対象者数 (配布数)	500 人
抽出方法	住民基本台帳に基づく無作為抽出
有効回収数	176 票
有効回収率	35.2%
実施期間	平成 27 年 6 月 10 日~6 月 29 日

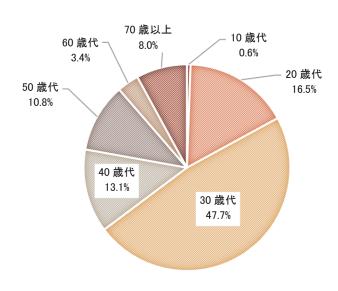
### ■転出者アンケート調査の概要

調査対象	平成 26 年 1 月~12 月に志木市からの転出者
	(満 18 歳以上の男女個人)
調査方法	郵送配布、郵送回収
対象者数 (配布数)	500 人
抽出方法	住民基本台帳に基づく無作為抽出
有効回収数	135 票
有効回収率	27.0%
実施期間	平成 27 年 6 月 10 日~6 月 29 日

### ②転入者の属性について

- ◆転入者の年代は、30歳代が約半数を占め、次いで20歳代となっており、若年層の転入が 多くなっています。
- ◆埼玉県内及び東京都からの転入が多く、特に周辺市区からの転入がみられます。
- ◆夫婦と子ども、夫婦のみの世帯の転入が多くなっています。

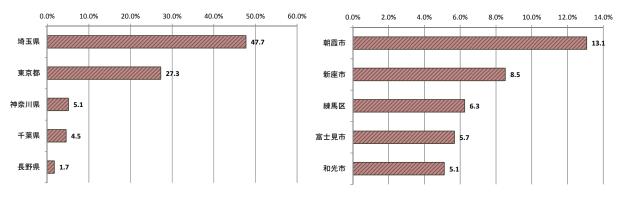
### ■年齢



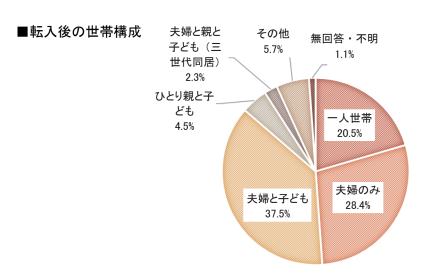
(回答者総数= 176)

### ■都道府県上位5位

### ■市区町村上位5位



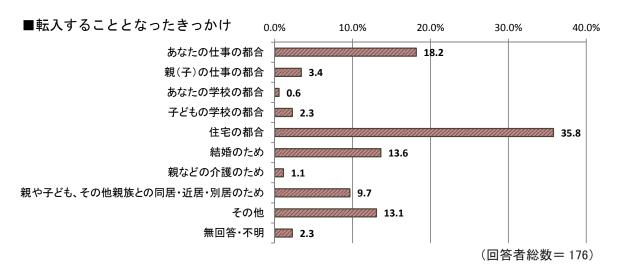
(回答者総数= 176)



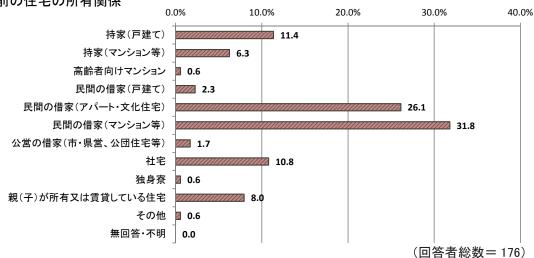
(回答者総数= 176)

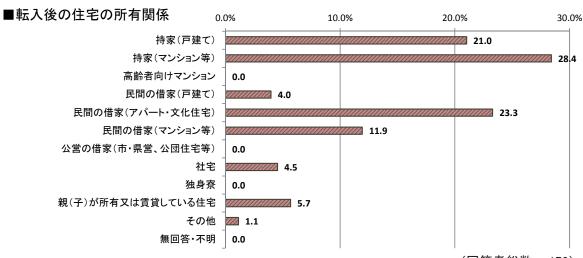
### ③転入のきっかけについて

- ◆転入のきっかけは、住宅の都合が35.8%と最も多くなっています。
- ◆転入前の住宅は、民間の借家が多く占めていますが、転入後の住宅は、持家(マンション等)、持家(戸建て)が大幅に増えています。
- ◆志木市への転入は、持家を求めて転入するニーズが高いことがわかります。



#### ■転入前の住宅の所有関係

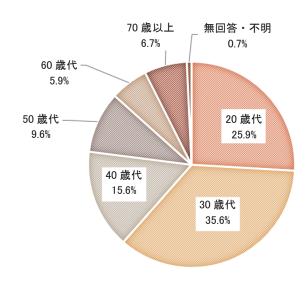




### ④転出者の属性について

- ◆転出者の年代は、30歳代が35.6%を占め、次いで20歳代となっており、若年層の転出が多くなっています。
- ◆埼玉県内への転出が約半数を占め、特に隣接市への転出がみられます。
- ◆夫婦と子ども、一人世帯の転出が多くなっています。

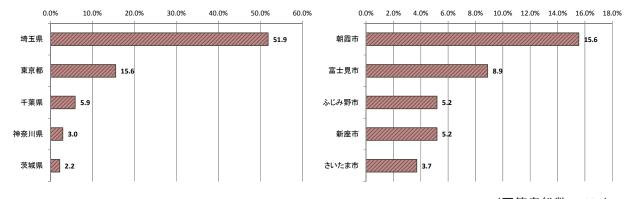
### ■年齢



(回答者総数= 135)

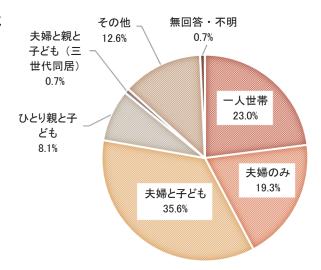
### ■都道府県上位5位

### ■市区町村上位5位



(回答者総数=135)

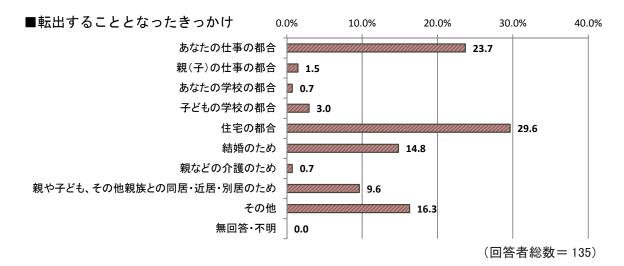
### ■転出前の世帯構成



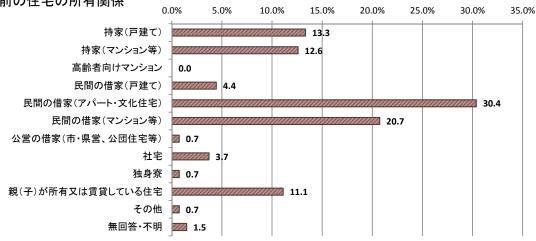
(回答者総数= 135)

### ⑤転出のきっかけについて

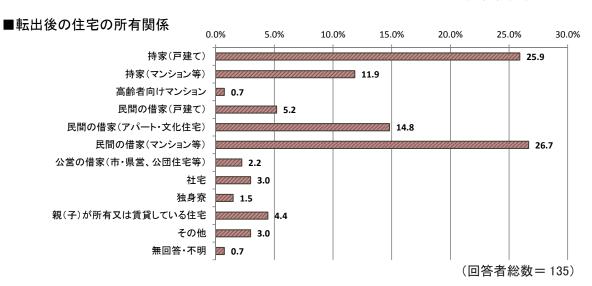
- ◆転出のきっかけは、住宅の都合が最も多く、次いで仕事の都合となっています。
- ◆転出前の住宅は民間の借家が多く占め、転出後の住宅も民間の借家(マンション等)が 最も多く、次いで持家(戸建て)が増えています。
- ◆志木市から転出は、借家から借家か、借家から戸建てへの転出が多くなっています。



# ■転出前の住宅の所有関係



(回答者総数=135)



### 2 目指すべき将来の方向

人口の現状を分析し、目指すべき方向や将来展望に必要な調査分析の結果を踏まえ、本市の 人口に関して目指すべき将来の方向を掲げます。

### 方向①:若い世代の結婚・出産・子育ての希望の実現による出生率の向上

市民の結婚・出産・子育てに関する意識や希望の調査から、理想の子どもの人数と比較して、 現在の子どもの人数が少ないことがわかります。

本市の人口動態として、死亡数が増加傾向にあるため、今後も自然増を維持するためには出生数の増加が必要です。そのため、現在の子どもの人数から理想の子どもの人数に近づけるための施策を講じることで、若い世代の結婚・出産・子育ての希望の実現による出生率の向上を図ります。

### |方向②:市民が安心して住み続けることができるまちの実現による定住の促進

本市の人口は、30歳代の年齢層が最も多く、今後も定住を促進することで転出の抑制につなげていくことが求められます。そのためには、安心して子育てができ、自然災害に対しても安全で、生涯、健康に暮らすことができる環境づくりに取り組み、子どもから高齢者まで市民が安心して住み続けることができるまちの実現を目指します。

### 方向③:コンパクトな市域で利便性が高く住みよいまちの実現による転出の抑制

本市の市域は、コンパクトな都市構造が形成されています。

この都市構造の特性を生かし、各施設等との近接性を生かした利便性の向上や公共交通の利便性の向上により、利便性が高く住みよいまちの実現による転出の抑制を図ります。

### |方向④東京や周辺市の 20~40 歳代をターゲットにした転入の実現による転入の促進

本市への転入は、20~40歳代のニーズが高く、特に、東京や周辺市からマンション等の持ち家を求めての転入が多くなっています。

現在住んでいる市民の定住促進とともに、新たな市民力の向上に向けて若い世代の転入を促進することが求められます。そのためには、本市の魅力の発信はもとより、東京や周辺市の20~40歳代をターゲットにした住まいや子育て等に関する情報を一体的に発信し、本市の住宅地としてのブランド力の向上に取り組み、転入の促進を図ります。

### 3 人口の将来展望

### (1) 将来展望の期間

将来展望の期間は2060 (平成72) 年までとします。

### (2) 人口の将来を展望するにあたっての推計方法

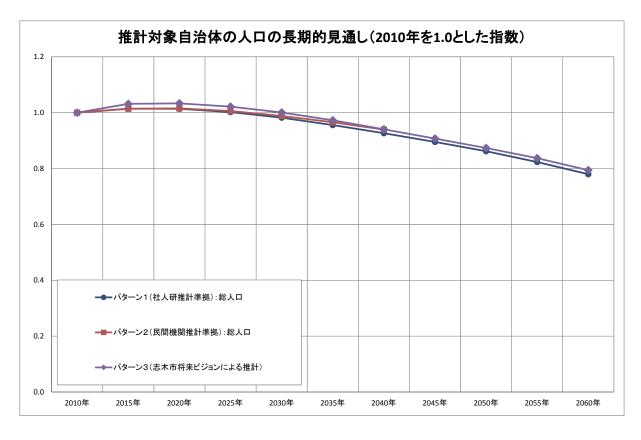
### ①施策を講じない場合の推計パターン

1)パターン1(社人研推計準拠)とパターン2(日本創成会議推計準拠)、パターン3(志木市将来ビジョンによる推計)との総人口の比較

パターン 1 (社人研推計準拠)とパターン 2 (日本創成会議推計準拠)、パターン 3 (志木市将来ビジョンによる推計)の 2040 (平成 52)年の総人口は、それぞれ 64,492 人、65,403 人、66,762 人となっています。

※パターン1…全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定した推計(社人研推計準拠) パターン2…人口移動が収束しない(全国の総移動数が、2010~2015年の推計値と概ね 同水準でそれ以降も推移する)と仮定した推計(日本創成会議準拠)

パターン3…平成26年3月31日(住民基本台帳)による推計値を基準に、国立社会保障・人口問題研究所による仮定値を用いたコーホート要因法による推計



### 2) 推計人口(志木市将来ビジョンによる推計)

本市の推計人口は、志木市将来ビジョンで使用したパターン3で行っています。

### i )推計方法

- ・住民基本台帳を基準人口としたコーホート要因法による推計
- ・国立社会保障・人口問題研究所による仮定値を利用

### ii )条件設定

項目	意味	使用したデータ
(1)基準人口	推計の出発点となる人口	平成 26 年住民基本台帳(同年3月31日現在)による男女・年齢(5歳階級)別人口を利用
(2)将来の出生率	将来の出生数を推計する ために用いる、女性の数 に対する子どもの数の比 率	平成 22 年国勢調査を基にしている『日本の地域別将来推計人口』(平成 25 年 3 月推計) (国立社会保障・人口問題研究所) における仮定値「子ども女性比(志木市)」を利用
(3)将来の生残率	各年齢層が5年後までに 生き残る確率	平成 22 年国勢調査を基にしている『日本の地域別将来推計人口』(平成 25 年 3 月推計) (国立社会保障・人口問題研究所) における仮定値「生残率(志木市)」を利用
(4)将来の純移動率	転入超過数の人口に占め る割合(転出超過の場合 はマイナスとなる)	平成 22 年国勢調査を基にしている『日本の地域別将来推計人口』(平成 25 年 3 月推計) (国立社会保障・人口問題研究所) における仮定値「純移動率(志木市)」を利用
(5)将来の出生性比	出生の際の男女比	平成 22 年国勢調査を基にしている『日本の地域別将来推計人口』(平成 25 年 3 月推計) (国立社会保障・人口問題研究所) における仮定値「O~4 歳性比(志木市)」を利用

### ■純移動率の設定(男)

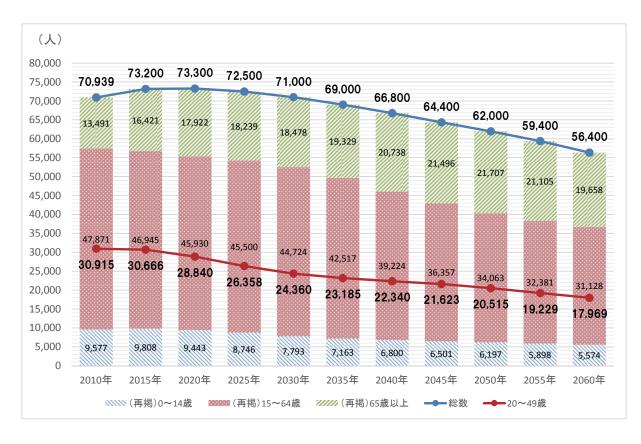
	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年
0~4歳→5~9歳	0.02096	0.01212	0.01271	0.01270	0.01252	0.01209	0.01209	0.01209	0.01209	0.01209
5~9歳→10~14歳	0.01802	0.00987	0.01057	0.01069	0.01064	0.01048	0.01048	0.01048	0.01048	0.01048
10~4歳→15~19歳	0.05152	0.03258	0.03065	0.03002	0.02989	0.02954	0.02954	0.02954	0.02954	0.02954
15~19歳→20~24歳	0.14099	0.10344	0.10116	0.09714	0.09547	0.09489	0.09489	0.09489	0.09489	0.09489
20~24歳→25~29歳	-0.00647	0.00710	0.00673	0.00739	0.00795	0.00764	0.00764	0.00764	0.00764	0.00764
25~29歳→30~34歳	0.02898	0.02489	0.02530	0.02507	0.02419	0.02327	0.02327	0.02327	0.02327	0.02327
30~34歳→35~39歳	-0.00453	-0.00334	-0.00247	-0.00266	-0.00280	-0.00304	-0.00304	-0.00304	-0.00304	-0.00304
35~39歳→40~44歳	0.01592	0.01036	0.01142	0.01120	0.01050	0.01045	0.01045	0.01045	0.01045	0.01045
40~44歳→45~49歳	-0.00972	-0.00803	-0.00799	-0.00801	-0.00808	-0.00801	-0.00801	-0.00801	-0.00801	-0.00801
45~49歳→50~54歳	-0.01374	-0.01092	-0.01104	-0.01117	-0.01112	-0.01114	-0.01114	-0.01114	-0.01114	-0.01114
50~54歳→55~59歳	-0.01776	-0.01401	-0.01380	-0.01404	-0.01414	-0.01401	-0.01401	-0.01401	-0.01401	-0.01401
55~59歳→60~64歳	0.00150	-0.00023	-0.00133	-0.00246	-0.00251	-0.00231	-0.00231	-0.00231	-0.00231	-0.00231
60~64歳→65~69歳	-0.03970	-0.03031	-0.02977	-0.02945	-0.02927	-0.02970	-0.02970	-0.02970	-0.02970	-0.02970
65~69歳→70~74歳	-0.00389	-0.00181	-0.00327	-0.00268	-0.00293	-0.00313	-0.00313	-0.00313	-0.00313	-0.00313
70~74歳→75~79歳	-0.00236	-0.00366	-0.00041	-0.00328	-0.00231	-0.00252	-0.00252	-0.00252	-0.00252	-0.00252
75~79歳→80~84歳	-0.00186	-0.00354	-0.00553	-0.00110	-0.00580	-0.00436	-0.00436	-0.00436	-0.00436	-0.00436
80~84歳→85~89歳	-0.00165	-0.00308	-0.00516	-0.00754	-0.00166	-0.00831	-0.00831	-0.00831	-0.00831	-0.00831
85歳以上→90歳以上	0.01835	0.02360	0.01717	0.00979	0.00730	0.01551	0.01551	0.01551	0.01551	0.01551

### ■純移動率の設定(女)

	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年
0~4歳→5~9歳	0.02156	0.01254	0.01298	0.01303	0.01288	0.01246	0.01246	0.01246	0.01246	0.01246
5~9歳→10~14歳	0.00095	-0.00138	-0.00075	-0.00055	-0.00053	-0.00061	-0.00061	-0.00061	-0.00061	-0.00061
10~4歳→15~19歳	0.06235	0.04181	0.03903	0.03792	0.03784	0.03743	0.03743	0.03743	0.03743	0.03743
15~19歳→20~24歳	0.13445	0.10352	0.10325	0.09839	0.09593	0.09535	0.09535	0.09535	0.09535	0.09535
20~24歳→25~29歳	-0.00134	0.01003	0.01086	0.01132	0.01144	0.01091	0.01091	0.01091	0.01091	0.01091
25~29歳→30~34歳	-0.00199	0.00115	0.00334	0.00316	0.00281	0.00235	0.00235	0.00235	0.00235	0.00235
30~34歳→35~39歳	0.01592	0.01101	0.01185	0.01149	0.01151	0.01110	0.01110	0.01110	0.01110	0.01110
35~39歳→40~44歳	0.00950	0.00537	0.00673	0.00650	0.00629	0.00638	0.00638	0.00638	0.00638	0.00638
40~44歳→45~49歳	-0.00413	-0.00409	-0.00386	-0.00378	-0.00380	-0.00376	-0.00376	-0.00376	-0.00376	-0.00376
45~49歳→50~54歳	-0.00087	-0.00218	-0.00226	-0.00225	-0.00212	-0.00221	-0.00221	-0.00221	-0.00221	-0.00221
50~54歳→55~59歳	-0.01170	-0.00933	-0.00919	-0.00926	-0.00930	-0.00928	-0.00928	-0.00928	-0.00928	-0.00928
55~59歳→60~64歳	-0.01275	-0.00996	-0.00952	-0.00939	-0.00946	-0.00947	-0.00947	-0.00947	-0.00947	-0.00947
60~64歳→65~69歳	-0.00602	-0.00530	-0.00512	-0.00498	-0.00489	-0.00508	-0.00508	-0.00508	-0.00508	-0.00508
65~69歳→70~74歳	-0.00352	-0.00227	-0.00318	-0.00293	-0.00279	-0.00273	-0.00273	-0.00273	-0.00273	-0.00273
70~74歳→75~79歳	0.00352	0.00124	0.00277	0.00156	0.00207	0.00200	0.00200	0.00200	0.00200	0.00200
75~79歳→80~84歳	0.00574	0.00049	-0.00058	0.00183	-0.00057	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033
80~84歳→85~89歳	0.00151	-0.00260	-0.00501	-0.00671	-0.00247	-0.00741	-0.00741	-0.00741	-0.00741	-0.00741
85歳以上→90歳以上	0.04944	0.04203	0.03254	0.01962	0.01561	0.02389	0.02389	0.02389	0.02389	0.02389

※純移動率は、国立社会保障・人口問題研究所の仮定値を利用

### ■推計人口



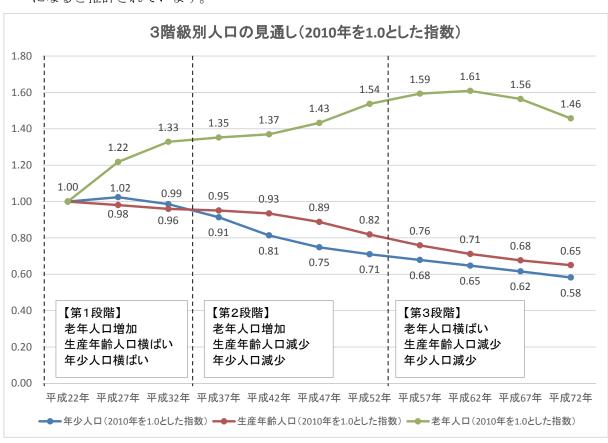
### 3) 推計結果の特件

### i) 人口の減少段階

本市の人口減少段階は、2020 (平成32) 年までは、老年人口が増加し、生産年齢人口と年少人口が横ばいの「第1段階」であるが、その後は生産年齢人口と年少人口が減少に転じ、2040 (平成52)年までは老年人口が増加し、生産年齢人口と年少人口が減少する「第2段階」、さらに、その後は老年人口も横ばいになり、2045 (平成57)年以降は、「第3段階」に該当します。

### ii ) 人口の減少率

2060 (平成 72) 年には、2010 (平成 22) 年と比較して年少人口が 58% (42 ポイントの減少)、生産年齢人口が 65% (35 ポイントの減少)、老年人口が 146% (46 ポイントの増加) になると推計されています。



### ②人口の将来展望にあたっての推計

### 1)目標人口

### i ) 推計方法

- ・志木市将来ビジョンの推計人口を使用
- ・出生率と純移動率は独自に設定し、その他は国立社会保障・人口問題研究所の仮定値を 利用

### ii ) 出生率の設定

出生率の設定にあたっては、若年世代の意識調査結果の、現在の子ども人数と希望の子ど も人数から、「意識調査結果による現在の出生率」と「希望出生率」を算出します。

平成16年~平成25年の合計特殊出生率の平均が1.18であることから、「意識結果による 現実の出生率」との比率を算出し、希望出生率に割り当てて目標指標を算出すると、出生率 の目標値は2.03となります。

### ■意識調査結果による現在の子ども人数

人数	回答人数	現在の子どもの数(※1)	出生率
総数	298	386	
0人	66	0	
1人	111	111	
2人	92	184	1.30
3人	25	75	
4人	4	16	
5人	0	0	

<sup>※1「</sup>人数」×「回答人数」により算出。

### ■意識調査結果による希望の子ども人数

希望人数	回答人数	希望する子どもの数(※2)	希望出生率
総数	298	666	
0人	13	0	
1人	15	15	
2人	168	336	2.23
3人	95	285	
4人	5	20	
5人	2	10	

<sup>※2「</sup>希望人数」×「回答人数」により算出。

#### ■目標出生率の設定

	意識調査	合計特殊出生率 (H16-H25 の平均値)	比率(※3)	目標指標(※4)
実出生率	1. 30	1. 18	0. 91	-
希望出生率	2. 23	-	0. 91	2. 03

<sup>※3</sup> 合計特殊出生率/実出生率 (意識調査) により算出 ※4 希望出生率 (意識調査) × 比率により算出

### ■推計年ごとの出生率の設定

2013年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
H25	H27	H32	H37	H42	H47	H52
1.45	1.49	1.60	1.71	1.82	1.92	2.03

#### ■国の長期ビジョンの出生率設定値

2020年	2030年	2040年
H32	H42	H52
1.6	1.8	2.07

#### ■純移動率の設定(男)

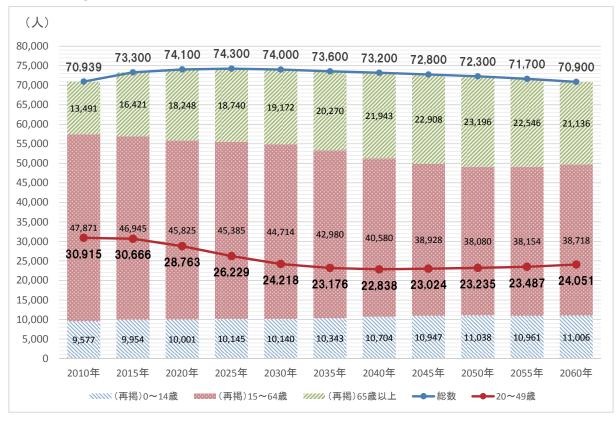
	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年
0~4歳→5~9歳	0.02096	0.01212	0.01271	0.01270	0.01252	0.01209	0.01209	0.01209	0.01209	0.01209
5~9歳→10~14歳	0.01802	0.00987	0.01057	0.01069	0.01064	0.01048	0.01048	0.01048	0.01048	0.01048
10~4歳→15~19歳	0.05152	0.03258	0.03065	0.03002	0.02989	0.02954	0.02954	0.02954	0.02954	0.02954
15~19歳→20~24歳	0.14099	0.10344	0.10116	0.09714	0.09547	0.09489	0.09489	0.09489	0.09489	0.09489
20~24歳→25~29歳	-0.00647	0.00710	0.00673	0.00739	0.00795	0.00764	0.00764	0.00764	0.00764	0.00764
25~29歳→30~34歳	0.02898	0.02489	0.02530	0.02507	0.02419	0.02327	0.02327	0.02327	0.02327	0.02327
30~34歳→35~39歳	-0.00453	-0.00334	-0.00247	-0.00266	-0.00280	-0.00304	-0.00304	-0.00304	-0.00304	-0.00304
35~39歳→40~44歳	0.01592	0.01036	0.01142	0.01120	0.01050	0.01045	0.01045	0.01045	0.01045	0.01045
40~44歳→45~49歳	-0.00972	-0.00803	-0.00799	-0.00801	-0.00808	-0.00801	-0.00801	-0.00801	-0.00801	-0.00801
45~49歳→50~54歳	-0.01374	-0.01092	-0.01104	-0.01117	-0.01112	-0.01114	-0.01114	-0.01114	-0.01114	-0.01114
50~54歳→55~59歳	-0.01776	-0.01401	-0.01380	-0.01404	-0.01414	-0.01401	-0.01401	-0.01401	-0.01401	-0.01401
55~59歳→60~64歳	0.00150	-0.00023	-0.00133	-0.00246	-0.00251	-0.00231	-0.00231	-0.00231	-0.00231	-0.00231
60~64歳→65~69歳	-0.03970	-0.03031	-0.02977	-0.02945	-0.02927	-0.02970	-0.02970	-0.02970	-0.02970	-0.02970
65~69歳→70~74歳	-0.00389	-0.00181	-0.00327	-0.00268	-0.00293	-0.00313	-0.00313	-0.00313	-0.00313	-0.00313
70~74歳→75~79歳	-0.00236	-0.00366	-0.00041	-0.00328	-0.00231	-0.00252	-0.00252	-0.00252	-0.00252	-0.00252
75~79歳→80~84歳	-0.00186	-0.00354	-0.00553	-0.00110	-0.00580	-0.00436	-0.00436	-0.00436	-0.00436	-0.00436
80~84歳→85~89歳	-0.00165	-0.00308	-0.00516	-0.00754	-0.00166	-0.00831	-0.00831	-0.00831	-0.00831	-0.00831
85歳以上→90歳以上	0.01835	0.02360	0.01717	0.00979	0.00730	0.01551	0.01551	0.01551	0.01551	0.01551

### ■純移動率の設定(女)

	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年
0~4歳→5~9歳	0.02156	0.01254	0.01298	0.01303	0.01288	0.01246	0.01246	0.01246	0.01246	0.01246
5~9歳→10~14歳	0.00095	-0.00138	-0.00075	-0.00055	-0.00053	-0.00061	-0.00061	-0.00061	-0.00061	-0.00061
10~4歳→15~19歳	0.06235	0.04181	0.03903	0.03792	0.03784	0.03743	0.03743	0.03743	0.03743	0.03743
15~19歳→20~24歳	0.13445	0.10352	0.10325	0.09839	0.09593	0.09535	0.09535	0.09535	0.09535	0.09535
20~24歳→25~29歳	-0.00134	0.01003	0.01086	0.01132	0.01144	0.01091	0.01091	0.01091	0.01091	0.01091
25~29歳→30~34歳	-0.00199	0.00115	0.00334	0.00316	0.00281	0.00235	0.00235	0.00235	0.00235	0.00235
30~34歳→35~39歳	0.01592	0.01101	0.01185	0.01149	0.01151	0.01110	0.01110	0.01110	0.01110	0.01110
35~39歳→40~44歳	0.00950	0.00537	0.00673	0.00650	0.00629	0.00638	0.00638	0.00638	0.00638	0.00638
40~44歳→45~49歳	-0.00413	-0.00409	-0.00386	-0.00378	-0.00380	-0.00376	-0.00376	-0.00376	-0.00376	-0.00376
45~49歳→50~54歳	-0.00087	-0.00218	-0.00226	-0.00225	-0.00212	-0.00221	-0.00221	-0.00221	-0.00221	-0.00221
50~54歳→55~59歳	-0.01170	-0.00933	-0.00919	-0.00926	-0.00930	-0.00928	-0.00928	-0.00928	-0.00928	-0.00928
55~59歳→60~64歳	-0.01275	-0.00996	-0.00952	-0.00939	-0.00946	-0.00947	-0.00947	-0.00947	-0.00947	-0.00947
60~64歳→65~69歳	-0.00602	-0.00530	-0.00512	-0.00498	-0.00489	-0.00508	-0.00508	-0.00508	-0.00508	-0.00508
65~69歳→70~74歳	-0.00352	-0.00227	-0.00318	-0.00293	-0.00279	-0.00273	-0.00273	-0.00273	-0.00273	-0.00273
70~74歳→75~79歳	0.00352	0.00124	0.00277	0.00156	0.00207	0.00200	0.00200	0.00200	0.00200	0.00200
75~79歳→80~84歳	0.00574	0.00049	-0.00058	0.00183	-0.00057	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033
80~84歳→85~89歳	0.00151	-0.00260	-0.00501	-0.00671	-0.00247	-0.00741	-0.00741	-0.00741	-0.00741	-0.00741
85歳以上→90歳以上	0.04944	0.04203	0.03254	0.01962	0.01561	0.02389	0.02389	0.02389	0.02389	0.02389

※純移動率は、国立社会保障・人口問題研究所の仮定値を利用

### ■目標人口① (出生率上昇) の試算



### iii) 純移動率の設定

出生率の上昇に加え、東京や周辺市の 20~40 歳代をターゲットにした転入策の促進により、純移動率の向上を図ります。

2020年度以降、20~40歳代の各年代において転出超過を解消します。

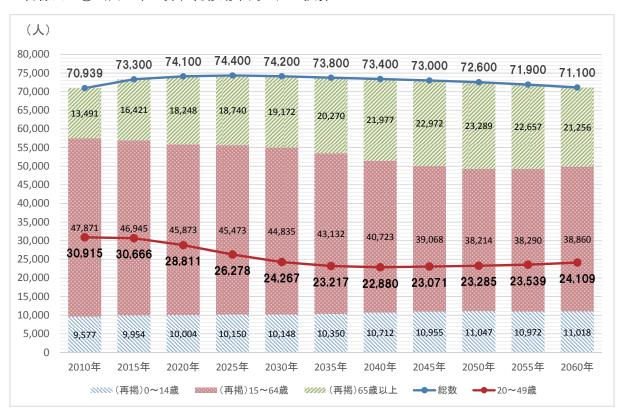
#### ■純移動率の設定(男)

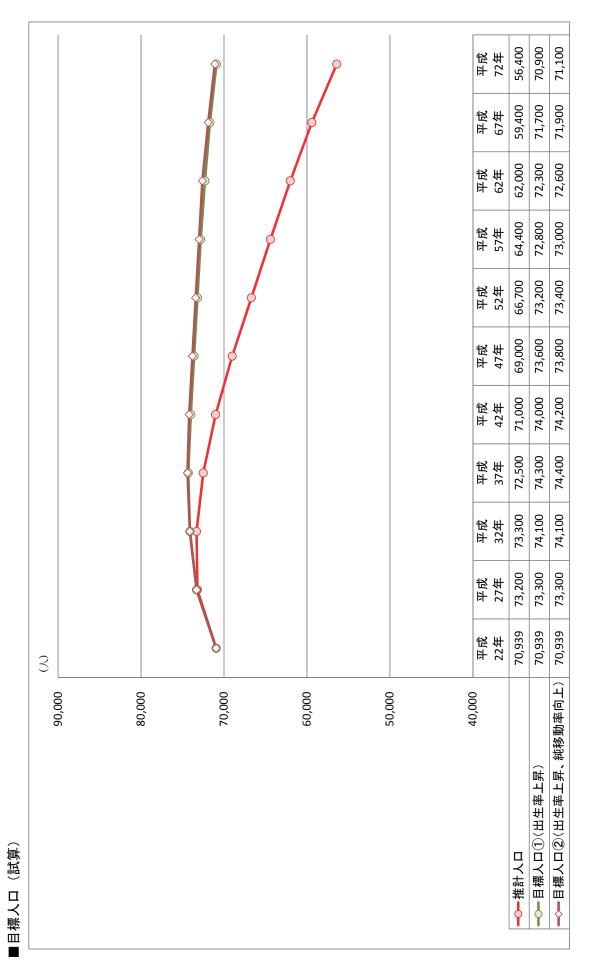
	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年
0~4歳→5~9歳	0.02096	0.01212	0.01271	0.01270	0.01252	0.01209	0.01209	0.01209	0.01209	0.01209
5~9歳→10~14歳	0.01802	0.00987	0.01057	0.01069	0.01064	0.01048	0.01048	0.01048	0.01048	0.01048
10~4歳→15~19歳	0.05152	0.03258	0.03065	0.03002	0.02989	0.02954	0.02954	0.02954	0.02954	0.02954
15~19歳→20~24歳	0.14099	0.10344	0.10116	0.09714	0.09547	0.09489	0.09489	0.09489	0.09489	0.09489
20~24歳→25~29歳	-0.00647	0.00710	0.00673	0.00739	0.00795	0.00764	0.00764	0.00764	0.00764	0.00764
25~29歳→30~34歳	0.02898	0.02489	0.02530	0.02507	0.02419	0.02327	0.02327	0.02327	0.02327	0.02327
30~34歳→35~39歳	-0.00453	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000
35~39歳→40~44歳	0.01592	0.01036	0.01142	0.01120	0.01050	0.01045	0.01045	0.01045	0.01045	0.01045
40~44歳→45~49歳	-0.00972	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000
45~49歳→50~54歳	-0.01374	-0.01092	-0.01104	-0.01117	-0.01112	-0.01114	-0.01114	-0.01114	-0.01114	-0.01114
50~54歳→55~59歳	-0.01776	-0.01401	-0.01380	-0.01404	-0.01414	-0.01401	-0.01401	-0.01401	-0.01401	-0.01401
55~59歳→60~64歳	0.00150	-0.00023	-0.00133	-0.00246	-0.00251	-0.00231	-0.00231	-0.00231	-0.00231	-0.00231
60~64歳→65~69歳	-0.03970	-0.03031	-0.02977	-0.02945	-0.02927	-0.02970	-0.02970	-0.02970	-0.02970	-0.02970
65~69歳→70~74歳	-0.00389	-0.00181	-0.00327	-0.00268	-0.00293	-0.00313	-0.00313	-0.00313	-0.00313	-0.00313
70~74歳→75~79歳	-0.00236	-0.00366	-0.00041	-0.00328	-0.00231	-0.00252	-0.00252	-0.00252	-0.00252	-0.00252
75~79歳→80~84歳	-0.00186	-0.00354	-0.00553	-0.00110	-0.00580	-0.00436	-0.00436	-0.00436	-0.00436	-0.00436
80~84歳→85~89歳	-0.00165	-0.00308	-0.00516	-0.00754	-0.00166	-0.00831	-0.00831	-0.00831	-0.00831	-0.00831
85歳以上→90歳以上	0.01835	0.02360	0.01717	0.00979	0.00730	0.01551	0.01551	0.01551	0.01551	0.01551

### ■純移動率の設定(女)

	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年
0~4歳→5~9歳	0.02156	0.01254	0.01298	0.01303	0.01288	0.01246	0.01246	0.01246	0.01246	0.01246
5~9歳→10~14歳	0.00095	-0.00138	-0.00075	-0.00055	-0.00053	-0.00061	-0.00061	-0.00061	-0.00061	-0.00061
10~4歳→15~19歳	0.06235	0.04181	0.03903	0.03792	0.03784	0.03743	0.03743	0.03743	0.03743	0.03743
15~19歳→20~24歳	0.13445	0.10352	0.10325	0.09839	0.09593	0.09535	0.09535	0.09535	0.09535	0.09535
20~24歳→25~29歳	-0.00134	0.01003	0.01086	0.01132	0.01144	0.01091	0.01091	0.01091	0.01091	0.01091
25~29歳→30~34歳	-0.00199	0.00115	0.00334	0.00316	0.00281	0.00235	0.00235	0.00235	0.00235	0.00235
30~34歳→35~39歳	0.01592	0.01101	0.01185	0.01149	0.01151	0.01110	0.01110	0.01110	0.01110	0.01110
35~39歳→40~44歳	0.00950	0.00537	0.00673	0.00650	0.00629	0.00638	0.00638	0.00638	0.00638	0.00638
40~44歳→45~49歳	-0.00413	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000
45~49歳→50~54歳	-0.00087	-0.00218	-0.00226	-0.00225	-0.00212	-0.00221	-0.00221	-0.00221	-0.00221	-0.00221
50~54歳→55~59歳	-0.01170	-0.00933	-0.00919	-0.00926	-0.00930	-0.00928	-0.00928	-0.00928	-0.00928	-0.00928
55~59歳→60~64歳	-0.01275	-0.00996	-0.00952	-0.00939	-0.00946	-0.00947	-0.00947	-0.00947	-0.00947	-0.00947
60~64歳→65~69歳	-0.00602	-0.00530	-0.00512	-0.00498	-0.00489	-0.00508	-0.00508	-0.00508	-0.00508	-0.00508
65~69歳→70~74歳	-0.00352	-0.00227	-0.00318	-0.00293	-0.00279	-0.00273	-0.00273	-0.00273	-0.00273	-0.00273
70~74歳→75~79歳	0.00352	0.00124	0.00277	0.00156	0.00207	0.00200	0.00200	0.00200	0.00200	0.00200
75~79歳→80~84歳	0.00574	0.00049	-0.00058	0.00183	-0.00057	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033
80~84歳→85~89歳	0.00151	-0.00260	-0.00501	-0.00671	-0.00247	-0.00741	-0.00741	-0.00741	-0.00741	-0.00741
85歳以上→90歳以上	0.04944	0.04203	0.03254	0.01962	0.01561	0.02389	0.02389	0.02389	0.02389	0.02389

### ■目標人口②(出生率上昇、純移動率向上)の試算





### ③人口の将来展望のまとめ

推計人口を基準として、合計特殊出生率及び移動率の設定により、2060年の目標人口及び各種目標指標は、以下の通り展望します。

### 【2060年の将来展望】

- ◆目標人口・・・・・・・・ 71,100 人
- ◆合計特殊出生率・・・・・・ 2.03
- ◆20~40歳代の社会増・・・・150人増

人口の将来展望は、2010(平成 22)年の 70,939 人から 2025(平成 37)年の 74,400 人まで増加しますが、その後は、緩やかに減少し、2060(平成 72)年の目標人口を 71,100 人とします。そのために合計特殊出生率の目標を 2.03 とし、2040(平成 52)年の達成を目指します。また、 $20\sim40$  歳代の転出超過を解消し、150 人の社会増を目指します。

上記を将来展望とした場合、今後は老年人口が増加し、生産年齢人口が減少することが予想されますが、老年人口は 2050 (平成 62) 年をピークに減少に転じ、生産年齢人口は横ばいで推移します。

2060 (平成 72) 年には、2010 (平成 22) 年と比較して年少人口が 115% (15 ポイントの増加)、生産年齢人口が 81% (19 ポイントの減少)、老年人口が 158% (58 ポイントの増加) になります。特に施策を講じることで、生産年齢人口の減少を抑制し、年少人口の増加を目指します。

